

学術的著作はどのように読むべきか？

若林正文

I. 学術論文・著作とは何か？

A. 構成内容からの定義：「学術論文」とはどのような性質を持つ文章か？

☆知的誠実性 (intellectual/academic integrity=1+2+3) を備えた自己主張

1. 継承性：先行研究の成果

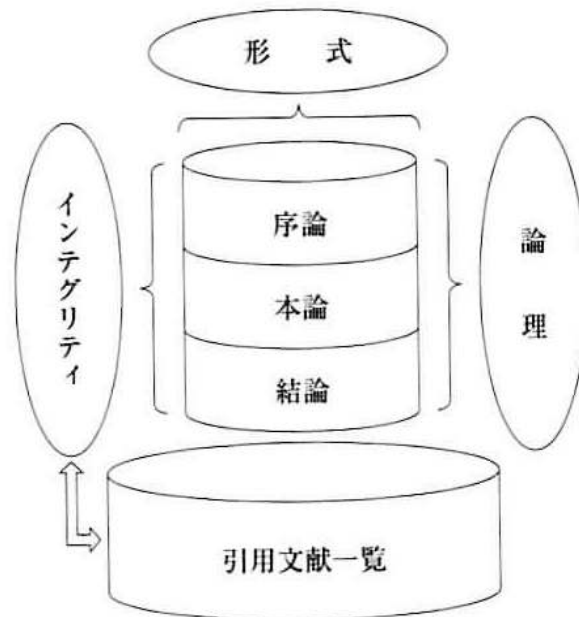
を吸収し、適切に敬意をはらった上での自己主張（≠先行研究無視の独りよがり）

2. 論理性：検証可能なデータ

による裏付け、論理的精確、学理の裏付け）を持ったストーリー（≠小説、戯曲などのドラマ性を持ったストーリー）

3. 検証可能性：他の人が

再検証可能な形のデータの明示（データ、資料・史料となる文献、概念・アイデアの出所など、主張の根拠の明示）≠盗作・剽窃



概念図 学術論文の構成

出所) 沼崎一郎 2018『はじめての研究レポート作成術』岩波書店、164

B. 構成要素からの定義：「学術論文」とはどのような構成要素から成り立っている文章か？

1. 表題（副題） 著者名
2. 論文本体（序論、本論、結論）
3. 注（出典注、説明注）
4. 参考文献目録
5. 要約

C. 実践的定義：「学術論文」を書くための必須の活動とは何か？

1. データ（文献、統計、実地の知見、インタビュー）の収集と整理←情報の検索技術
2. テーマの設定とデータの解説←論理性を鍛える＝「学術的文章の作成」授業
3. 論文本体の内容のアウトライン作り（目次作り）と執筆・清書←レポート作成術に関するノウハウを活用

*この過程で、知的誠実性（盗用・剽窃に陥らない習慣）を養う

D. 学術論文は何でないか？

- ①≠感想や印象←立論：「論」をたてる、論ずるもの
- ②≠勝手な決めつけや思い込み←論証：立論の根拠を示す
- ③≠盗用・剽窃行為[plagiarism]←出典明示：他人の書いたもの、資料を書き写すのではなく、引用・使用したら出典を明示する

II. 学術論文・著作はどのように読むべきか？

(1)読書の四段階[アドラー、ドーレン（外山・楨訳）1997 『本を読む本』講談社]

- ①初級読書
- ②点検読書
- ③分析読書
- ④シントピカル（比較対照）読書

(2)読者としての主体性を形成する

①著者との適切な距離をとる：間接話法をとる＝著者と自分を一体化した話法を決して取らない。

× AはBの状況にある場合、Cの傾向を示します。

○ AはBの状況にある場合、Cの傾向を示す、と著者は述べています／結論づけています／推論しています／主張しています。

②全体と部分、部分と部分の関係を常に意識する＝論述の構造に常に目を光らせよう

③他の書物（著者自身の、他の著者の）との関連を常に意識する

④知らない事項は調べるくせをつけよう

⑤表（概念表、年表・略歴、一覧表など）、図（写真、概念図）など、文章以外のものも軽視しない。

⑥文章による論述でも、読解する側から表や図に整理できそうな論述については、それを試みる

⑥自分の考え方、感じ方、疑問の有無を常に自分に問う、そしてそれを言葉にする

@補足：学術論文（レポート、卒論も含む）の絶対のルール

*盗用・剽窃（plagiarism）の絶対禁止：自分の堕落・身の破滅

*盗用・剽窃に陥らないような知の習慣をつけるには？

・他者の意見・主張などを紹介するときの間接話法を身につける＝自身の知的主体性の形成

・引用や注釈に技術を身につける

・出典も含めてメモをつける習慣を養う

・自身の文献目録と「図書室」を作る：Create your own library!